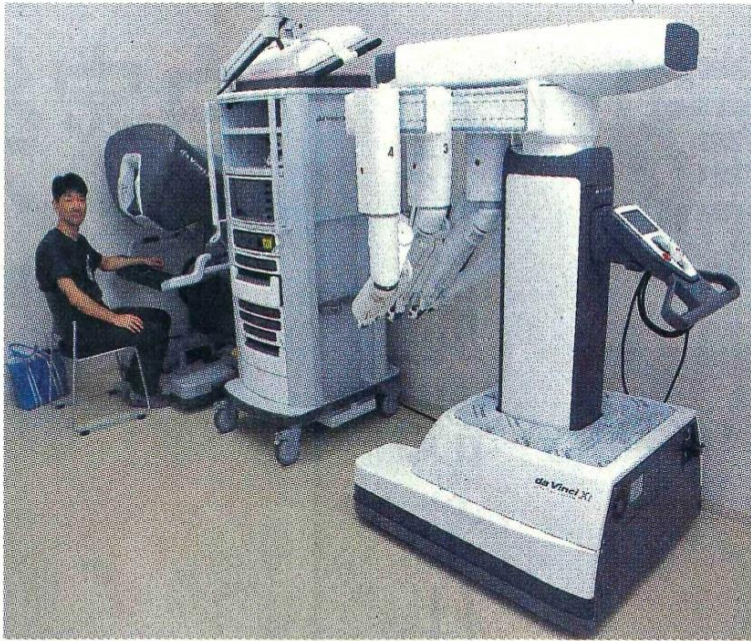


手術支援ロボット導入

胆 振 初

製鉄記念 室蘭病院 来年3月から使用

製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）は、最新の内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入した。胆振管内の医療機関では初。従来の内視鏡より精密な操作ができ、患者の負担軽減にもつながるといふ。来年3月から泌尿器科領域の手術や将来的に消化器外科、呼吸器外科領域の手術にも使用する方針。同病院は「地域医療の一層の充実につなげたい」としている。（松岡秀直）



製鉄記念室蘭病院が導入した「ダヴィンチXi」。来年3月から泌尿器科領域の手術に用いるという

術は、前立腺がん、腎臓がんで保険適用になつており、4月から肺がん、胃がん、大腸がんの手術などにも保険適用が広がった。特に、前立腺がんの手術（前立腺全摘術）では非常に細かな手術も行えるため、「性功能を含む神経の温存や出血の抑制、排尿機能のより早い回復などで大きな効果を発揮している」（前鼻健志・泌尿器科主任医長）という。

内視鏡手術では、腹部に開けた小さな穴に手術器具を差し込み、医師が患者のそばでモニターを確認しながら進めていた。「ダヴィンチ」では医師がモニターを見ながらアームを遠隔操作し、手術器具の差し込みや患部の切除などを行う。さらに、ロボットアームは人間よりも可動域が広く、手ぶれ補正機能などもあり、「より正確な手術が可能」（同病院）。手術時間の短縮や患者の負担軽減にもつながるといふ、同病院でも導入を決めた。「ダヴィンチ」による手

西胆振管内の患者がロボット支援手術を受ける際、現在は札幌圏への転院が必要だが、同病院では来年3月を手始めに前立腺全摘術に用いる予定。その後、腎臓がん（腎部分切除術）、将来的には胃がん、肺がん、大腸がんの手術にも用いるという。

前田病院長は「低侵襲で最先端医療がこの地域で受けられることは、高齢化が進む西胆振医療圏の患者へのメリットが大きい」と話している。

【ダヴィンチ】米国で開発され、国内では2009年（平成21年）に医療機器として承認。ロボットアームを備えた本体と、遠隔操作台やモニター装置がある。同病院は「ダヴィンチ」の最新機種「Xi」を導入。手術画像は高画質で立体的な3Dハイビジョンで、人間の手の動きをより正確に再現できる特長がある。